



新たに国宝へ

専修寺 御影堂・如来堂



真宗高田派の本山である専修寺がある一身田町には、寺内町の歴史的な町並みが多く残り、その中でも専修寺の御影堂と如来堂は、大きな屋根が並び、遠くからも眺めることができるシンボリックな建物です。いずれも高さが25mを超える国内屈指の規模を誇る木造建築で、昭和36年に国の重要文化財に指定されました。

このたび、10月に国が開催した文化審議会で、この御影堂と如来堂を国宝に指定することが適当とする答申が出されました。国宝とは、文化財保護法において「重要文化財のうち世界文化の見地から価値が高いもので、たぐいえない国民の宝たるもの」とされ、この答申のとおり指定されると、御影堂と如来堂は三重県内で初めての国宝建造物になります。

如来堂の内観



細部まで金箔が施された美しい厨子



柱の間隔を広く取り、天井の高さを変えることで堂内を広く感じさせている。内陣は柱と壁、欄間に至るまで金箔をはり、壮麗な空間を作り出している

御影堂の内観

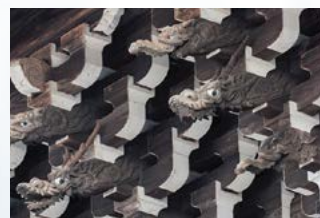


天井までの高さは約8m。通し柱の数を減らして作られた広い空間では、一度に約2,000人が参拝できる。内陣の金色に輝く柱と多彩な天井画が尊厳な雰囲気醸し出す



厨子の扉は極彩色の花で飾られている

如来堂



軒の荷重を支える、均整のとれた美しい組物。上から順に猿・龍・象と、さまざまな表情を見せる